

素流協 News

平成16年5月25日
第2号

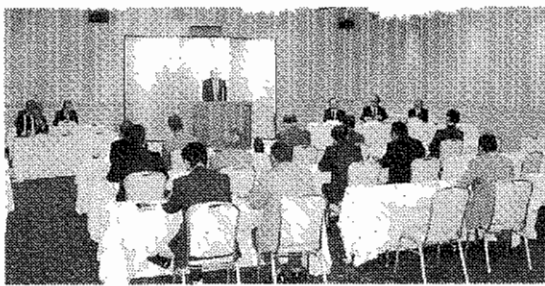
平成16年5月25日発行・発行所 岩手県素材流通協同組合 盛岡市菜園1丁目3-6/電話019(652)7227/FAX019(652)7227

計画量四万九千³m³を達成しよう

岩手県素材 流通協同組合 第一回通常総会を開催

岩手県素材流通協同組合の第一回通常総会は十四日午後三時から盛岡市駅前通のホテルメトロポリタン盛岡本館で開かれ、事業報告、事業計画など六議案を原案通り承認、決定しました。

また、設立初年度は役員任期が一年となっていることから、理事八人、監事二人の選任を行い、全役員を再選、総会終了後ただちに役員会を



に行い、下山裕司理事長、金田徳副理事長、山崎弘専務理事を再任しました。

招いて報告会が行われ、開会に当たり下山理事長は「わが国の経済には持ち直しの兆候も見られるますが、森林・林業を巡る情勢には、依然として回復の兆しが見えませんが、森林に対する社会的な要請は高まっており、国民の森林に対する要請と実際の林業を巡る事象との間には大きなアンバランス、ミスマッチが感じられます。本県の林業、木材産業においても極度の不振状態がありますが、そういう状況の中で昨年素流協は発足しました。森林整備、林業振興にとって素材生産は重要な担い手であり、素材生産や間伐作業にともない発生する小径材、短尺材、低質材などが需要に結びつけば活性化の一助になるのではないかと考えてから素流協を立ちあげたのであります。

一年を経過し、計画した供給量三万六千立方メートルに対し、実績は七三％に止まりました。また、土木用資材や針葉樹のパルプ、チップ材を供給しようと計画しましたが、なかなか販路ができず実績はゼロに終わりました。しかし、この一年の間に需要者と供給者の間の流通システム構築が進み、さらに、何度か会って情報交換するなかで、良好な信頼関係を築く礎ができました。二年目は勝負の年であり、昨年の結果を参考にしながら計画が達成できるよう頑張りたいと思います。この組織が岩手県の林業振興の一助となるよう関係者のご支持とご協力をお願い申し上げます」とあいさつしました。

このあと、山崎弘専務理事が総会の概要について報告し、来賓の岸純夫東北森林管理局青森事務所長（茅森貴三男販売担当監査官代読）、千田寿光農林水産部林務担当技監、福岡健三北日本プライウッド(株)取締役社長から当協同組合のますますの発展を祈念する旨のご

祝辞を頂だい致しました。

当協議会の平成十五年度事業結果につきましては、設立初年度であることから、素材流通システムを円滑に機能させることを第一義とし、需要・供給双方の信頼関係の構築に努めた結果、素材二六、三五〇立方m、金額で約二億二千万円を販売し、当期利益金一万七百万円を計上しました。

工場別の販売量は、ホクヨープライウッド(株)が一九、六〇九立方m、北日本プライウッド(株)が六、七四一立方mとなりました。

平成十六年度は、共同出荷事業を実施することによって、安定供給による需要の安定、拡大を目指し、資源の有効活用を図ります。また、共同事業の積極的な推進によって組合員の経済的地位の向上と組合の経営基盤の強化を目指すことを基本方針に、組合員が取り扱う合板用素材(カラマツ・アカマツ・スギ)四九、〇〇〇m³、土木用素材六〇〇m³、合計四九、六〇〇m³を共同販売します。

今月のトピックス

「素流協より」

今年四月、「岩手県産材産地証明制度」が設立されました。この制度の内容等については、岩手県産材認証推進協議会が県下五地域で説明会を開催いたしております。

当素流協としては、組合員各位に対して平成十六年四月三十日付で「岩手県産材認証制度の創設に伴う素流協の対応について」および五月二十五日付「岩手県産材産地証明制度の参加・加入について」の文書連絡をしたところでありま

す。したがって、組合員各位におかれましては、この制度の趣旨・必要性・内容については理解いただいているものと考えております。ではなぜ、この欄でこの制度について取り上げるのかと申しますと、この制度がしっかりと施行・運用されるならば素流協および組合員の事業展開に大きく貢献するもの

と考えるからであります。その理由を具体的に幾つか述べてみたいと思えます。

①近年、木材製品について「差別化」を強調して販路拡大、需要

拡大を図る動きが全国各地で起つてきております。

また、木材製品の需要者(消費者)が差別化をうたう木材製品を志向する傾向も随所でみられるようになりました。ここでいう「差別化」とは、外材と国産材と、国産材の中でも自県産材と他県産材を区別して自分により身近なもの・より関係の深いものを取り上げて優先的に利用することであり、最近よく云われます「地産地消」の動きは、まさに「差別化」活動そのものと云ってよいでしょう。

この「岩手県産材産地証明制度」は、岩手県産木材およびその製品の差別化を明確にし、県産木材・製品の需要拡大につなげようということです。素流協の組合員は、主として岩手県内で素材生産事業

を行っておりますから今後の事業展開を考えたとき、この産地証明制度を無視しえないと考えます。②この制度における産地証明行為は、素材生産事業(生産した場所・時期・数量等)からスタート

します。産地証明された丸太が第一次加工、第二次加工とそれぞれ

の段階で県産材証明がなされながら最終消費者の手へ岩手県産材製品として供給されるわけです。スタート地点(素材生産箇所)が証

明されていない丸太は、製材工場等の加工段階で産地証明はできません。このことは、最終消費者が産地証明された木材製品を欲する場合に木材加工段階でも産地証明された原木使用が不可欠となることとあります。したがって、今後は素材生産事業段階で産地証明行為をなされることが強く求められるようになっていくと考えます。素流協組合員に対してこの制度への参加を勧める所以であります。

③もう一点は、現在、素流協の最大の素材供給先は、合板工場でありますが、合板製品についても差別化の動きが出てきております。すなわち、国産原木を使った合板

製品の需要が増加する傾向が出てきたというところであります。素流協としては、国産材を原料とする合板需要の増大を見越した対応が求められるわけでありまして、以上述べました理由から、素流協としては、組合員各位がこの制度に参加・加入されますことを要

請する次第であります。

◎世界の森林の現況・動向

世界の森林の現況・動向について概観すると、平成十年（二〇〇〇年）までの十年間で熱帯林を中心に、わが国の国土面積（三、七〇〇万ha）の二・五倍の森林が減少しており、これは一年間に九四〇万haも減少していることになり、別の統計を見ると、この数字はもっと大きくなっており、また温帯林等でも、劣化している森林が多く存在します。

森林の減少・劣化の主たる原因は、過剰な伐採や農地への転用等ですが、ただこれだけの要因によるのではなく、社会的、経済的、自然的な要因が複合的に作用していると言われております。

地球上の森林の減少・劣化の進行は、その国や地域での木材不足、洪水、濁水だけでなく、地球温暖化や砂漠化の進行など地球規模の問題を一層深刻化させる恐れがあります。

それでは、もう少し詳しく世界の森林が置かれている現状を見てみたいと考えます。

(1) 開発途上地域での森林の減少・劣化

地域別に見ると、熱帯林を中心として、アフリカと南米の開発途上地域の減少面積が大きく、この

また、開発途上地域の森林では、

人口の増加、食糧不足等を背景とした過度の焼畑や放牧、過剰な薪

炭用材の採取、無秩序な商業伐採、大規模な森林火災、気象変動等に

よって、疎林化や植生の衰退といった森林の劣化が進行しております。(2) 温帯林等の劣化

ヒロシの独白
今なぜ、
国産材利用のための
需要喚起が必要なのか？



地域で世界の減少面積の九六%を占めております。

また、アジアでは、地域全体で

四百万haの減少にとどまっておりますが、これは東南アジアでは二千三百万haも減少しているのです。他のアジア地域で造林等による百九十万haにのぼる森林造成・増加で補った結果であります。

平成十年（一九九八年）のロシアでの森林火災による被害面積は、

四百万〜七百万haと推定されてお

り、野生生物への影響、固定されていた炭素の放出による地球温暖化への影響が懸念されております。また、東シベリアでの皆伐による森林伐採は、永久凍土の融解を引き起こし、湿地化により森林再

生を困難にするだけでなく、温室効果の高いメタンガスの発生という深刻な環境問題をはらんでおります。

ヨーロッパにおける大気汚染による森林被害は減少傾向にあるものの、国連の「欧州経済委員会二〇〇一年報告」では、同委員会が長期にわたり実施している国際モニタリング調査の対象となっている

二十一カ国、五十地点の針葉樹調査木のうち、一八%で落葉、四二%で葉の変色といった大気汚染によると考えられる被害が観察されております。

カナダでは、大面積皆伐跡地の生育不十分な更新地が見られ、一九九〇年代後半から森林回復のための造林が行われる一方、企業と住民、環境保護団体との話し合いが行われ、天然林の保護や皆伐中心の伐採方法の見直しが進みつつあるということです。

4月の販売実績

ホクヨープライウッド(株)、北日本プライウッド(株)の2社に出荷した、合板用丸太の平成16年4月の販売実績は下表のとおりです。

4月も出荷が好調で、月間の出荷実績が3,000m³を超えました。

項目 樹種	長級 m	径級 cm	販売先		計 m ³	出荷割合	
			ホクヨープライウッド(株)	北日本プライウッド(株)		樹種毎 %	樹種毎 %
			m ³	m ³		長級毎 %	長級毎 %
スギ	1.9	14上	739	210	949		56.0
	4.0	14上	489	255	744		44.0
	計		1,228	465	1,693	50.0	100.0
カラマツ	1.9	14上	1,066	45	1,111		98.4
	4.0	14上	10	8	18		1.6
	計		1,076	53	1,129	33.4	100.0
アカマツ	1.9	16上	249	150	399		84.0
	4.0	16上	0	76	76		16.0
	計		249	226	475	14.0	100.0
サワグルミ	1.9	20上	88	—	88	2.6	100.0
合計			2,641	744	3,385	100.0	100.0

編集後記

▽さる五月十四日、岩手県素材流通協同組合の第一回通常総会が開催され、提出された七議案について原案通り承認された。まずは目出たい限りである。「役員選任について」の議事において再任された下山理事長曰く「十五年度の事業実行については、かならずしも満足のいく結果とは言えないが、この一年間の実行過程で種々の改善すべき点が明確になった。これらの改善事項をしっかりとフォローすれば二年目の事業成果は期待できるよ」とのことです。乞御期待！

▽山崎専務の頭の中は、平成十六年度の計画量の達成への思いで満ちあふれんばかり、悲壮感すら伝わってくる今日この頃です。この四月の素流協の素材扱量は三千四百m³であります。ちなみに、昨年四月の実績が一千七百m³でありました。山崎専務さん、過度の樂觀は禁物ですが、新年度始まったばかり。じつくりと腰を落としてやりましょう。